

## 2000年問題

もういくつ寝ると2000年、という状況になって来ました。7月の大魔王も気になるのですが、コンピュータの「2000年問題」もおおいに話題になっています。パソコンでは2000年問題はあるのか？探ってみましょう。

まず、2000年問題とはどんなことなのか、当社の近くの信用組合さん(\*1)の「組合ニュース」という小冊子に簡潔な説明があります。

-----  
Q 2000年問題とはなに？

A コンピューターの西暦処理が起こす誤動作のことです。

1999年は「99」と下2桁で表示することが習慣になっていますが、2000年になると「00」となってコンピュータの判断は1900年と読みかえてしまいます。

コンピュータが誕生した頃は、ハードウェアが極めて高価だった為、記憶装置の節約のため下2桁表示にしていたことがこの問題の背景になっています。コンピュータ化された全ての企業にとってプログラムの修正が間に合うかが今、大きな問題となっています。

-----  
この記事で言っている「コンピュータの判断」は、正確には「コンピュータに組み込んだプログラムが下す判断」です。「コンピュータに組み込んだソフトウェアの判断」といってもいいでしょう。

では、「コンピュータ」のひとつである「パソコン」のソフトウェアはどうでしょう。Microsoft Access97を解説した拙著(\*2)に次のように書きました。

-----  
日付/時刻型データの記録方法

Access97がデータとして記録するのは、あくまでも「日付の値」であって、「97/12/01」というデータをそのまま記録しているのでは

ない。

日付の値とは、ある基準日(Access97は1899年12月30日)から何日目という通算の日数で、たとえば1997年12月1日は基準日から35765日目にあたる。日付/時刻型のフィールドには、この35765という数値が記録され、フォームのテキストボックスなどに表示するときに、日付の形式になおして「97/12/01」と表示しているのである。

今騒ぎになっている2000年問題は、通算日ではなく「971201」と文字列で記録していることに原因がある。著者もかつて大型コンピュータのソフト作りに携わってたが、そのころは文字列で記録していた。通算日などという智慧が回らなかったそのツケが2000年問題なのだろう。Access97のデータ記録に関しては、2000年問題は関係ない。

-----  
日付を通算日で記録して、画面に表示するときや、プリンタで印刷するとき日付の表現に直しているわけです。表現の仕方を和暦に設定すれば、35765日目と記憶したデータは「H09/12/01」と表示されます。この方式なら、信用組合さんのニュースのような2000年問題はおきないのです。

日付を基準日からの日数で記録する方法に最初に会ったのは、Dos版のLotus123でした。現在ではLotus123はもちろんですが、AccessもExcelもこの方法です。ただし、それぞれのソフトウェアで基準日が違っているようです。

当社では、Windows用のソフトウェアを多く製作していますが、日付はすべて通算日方式を用いていますので、「2000年になっても問題は無い！」と安心しきっていたのです....

\*1 中ノ郷信用組合

\*2 Access97 Expert ソフトバンク刊 2800円